



蕨市水道事業ビジョン

～市民の豊かさつなぐ わらびの水道～
—概要版—



令和 5 年 3 月

蕨市水道部

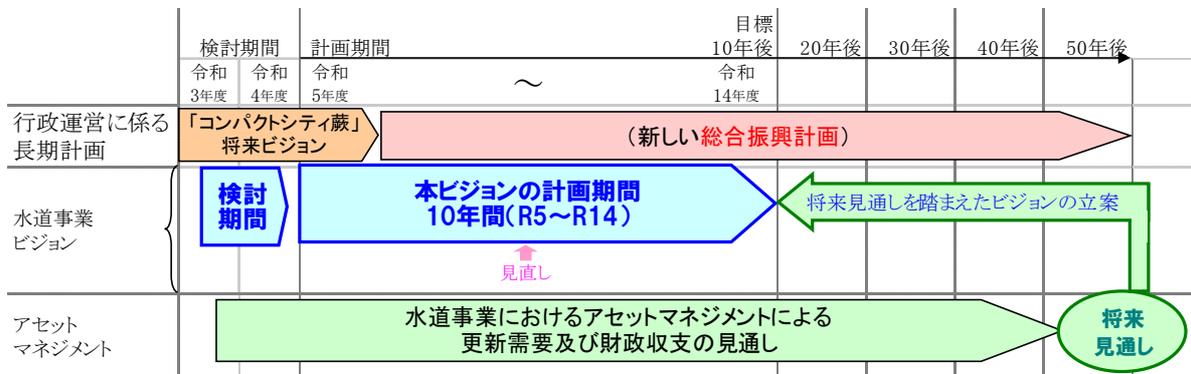
1. 計画の目的

厚生労働省は、平成 16 年 6 月に策定した「水道ビジョン」の見直しを行い、平成 25 年 3 月に「新水道ビジョン」を策定しました。これは、水道を取り巻く経営環境の変化に対応し、水道の理想像を「安全」「強靱」「持続」の観点から明示するとともに、今後取り組むべき事項や方策、関係者の役割分担を示したものです。

このような背景を踏まえるとともに、先の「蕨市水道ビジョン」の計画期間が満了を迎えるため、中長期的視点に基づき将来あるべき理想像を示すとともに、その理想像を具現化するための具体的な取組を示す「蕨市水道事業ビジョン」を策定します。

2. 計画の期間

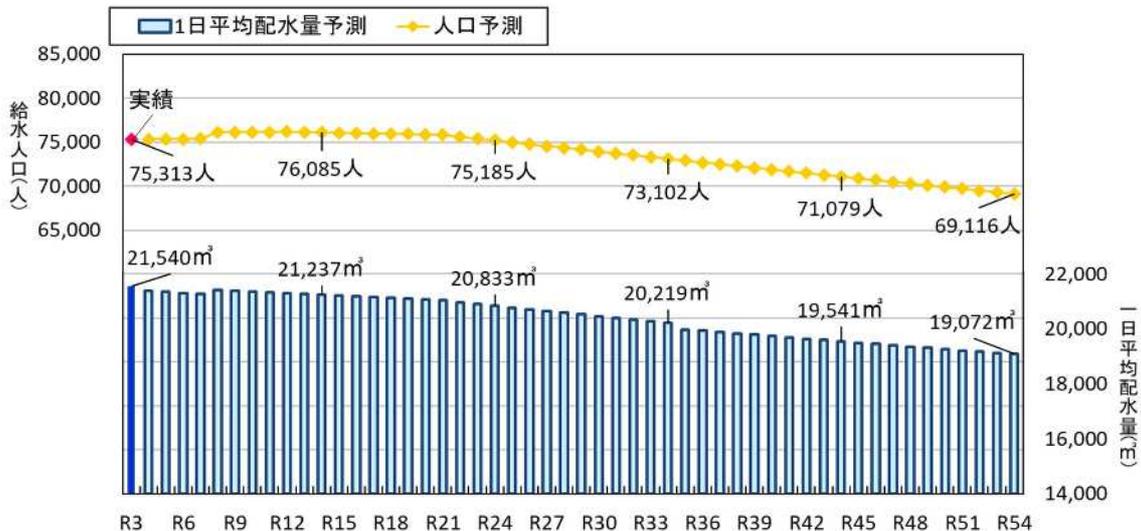
計画の期間は、令和 5 年度から令和 14 年度の 10 年間とします。なお、より実効性の高い計画とするために、策定後 5 年目（令和 9 年度）に自己検証、評価を実施したうえで見直しを行うこととします。



<水道ビジョンの計画期間>

3. 将来の事業環境見通し

今後の水需要の予測では、令和 54 年度の給水人口は令和 3 年度より 6,197 人少ない 69,116 人と予想しており、これによって令和 54 年度の 1 日平均配水量は令和 3 年度より 2,468 m³少ない 19,072 m³となる見込みです。



<給水人口と 1 日平均配水量予測>

4. 経営理念と基本方針など

経営理念は、使用者に対して果たすべき役割・責任を普遍的に明確化するものとして、平成24年度に策定した「蕨市水道ビジョン」の経営理念を踏襲します。

経営理念

**将来にわたって、市民に安心・安全な水を安定的に、
適正な料金でお届けする**

～市民の豊かさつなく わらびの水道～

また、厚生労働省の「新水道ビジョン」で掲げられた、水道の理想像に必要な3つの観点「安全」「強靱」「持続」を整理して基本方針を定めました。

基本方針 1

安心して飲める水道【安全】

全ての市民が、いつでもどこでも、水をおいしく飲める水道事業を目指します。

基本方針 2

災害に強い水道【強靱】

自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道事業を目指します。

基本方針 3

将来にわたって健全な水道【持続】

給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道事業を目指します。

基本方針

行動指針

行動計画

事業計画

安心して飲める
水道【安全】

水質管理の徹底	■ 水質管理の強化と情報提供	地下水の水質検査頻度の増加 「水安全計画」の適切な運用 速やかな水質検査結果の公表
	■ 貯水槽水道に関する指導と情報提供	貯水槽水道設置者への指導・助言 直結給水方式の情報提供
給水装置の安全性強化	■ 鉛製給水管解消の促進	鉛製給水管解消の促進

災害に強い水道
【強靱】

管路・施設の耐震化	■ 管路の耐震化	重要度の高い管路の耐震化 耐震性が脆弱な管路の耐震化
	■ 施設の耐震化	中央浄水場耐震化の検討
危機管理対策の充実	■ 「業務継続計画」の定期的な見直し	「業務継続計画」の見直し
	■ 応急給水体制の充実	応急給水体制の強化 応急給水設備の整備及び維持管理の徹底
	■ 施設の浸水対策	中央浄水場浸水対策の検討 取水井の浸水対策の検討

将来にわたって
健全な水道【持続】

管路・施設の健全性の維持	■ 効率的な管路管理	「管路更新計画」に基づく管路更新 管路の保全・維持管理
	■ 効率的な施設・設備管理	「施設・設備更新計画」に基づく施設・設備更新 施設・設備の保全・維持管理
施設能力の見直し	■ 需要に応じた施設能力への見直し	施設のダウンサイジングの調査・研究
地下水源の活用と保護	■ 取水井の適正管理	取水井の長寿命化 取水井更新の検討
	■ 地下水の保護	「地下水取水基準」に基づく取水と地下水状況の監視
健全な財政運営	■ 支出の削減	管路及び施設・設備の長寿命化 高有収率の維持 新規材料及び技術に関する調査・研究
	■ 収入の確保	適正な水道料金の検証 高収納率の維持
	■ 官民連携・広域連携の検討	官民連携の検討 広域連携の検討
安定的な業務体制の維持	■ 技術・知識の継承	職員研修の推進 既存情報のデータベース化
使用者に支持される事業運営	■ 使用者意見の反映	使用者意見の収集 使用者への情報提供
環境対策への取り組み	■ エネルギーロスの削減	輻輳管・連合管の更新 効率的な施設配置の調査・研究
	■ 温室効果ガス排出の抑制	設備更新に伴う省電力化 低公害車の導入 再生可能エネルギー設備導入の検討

<行動指針、行動計画及び事業計画>

5. アセットマネジメント

(1) 目的

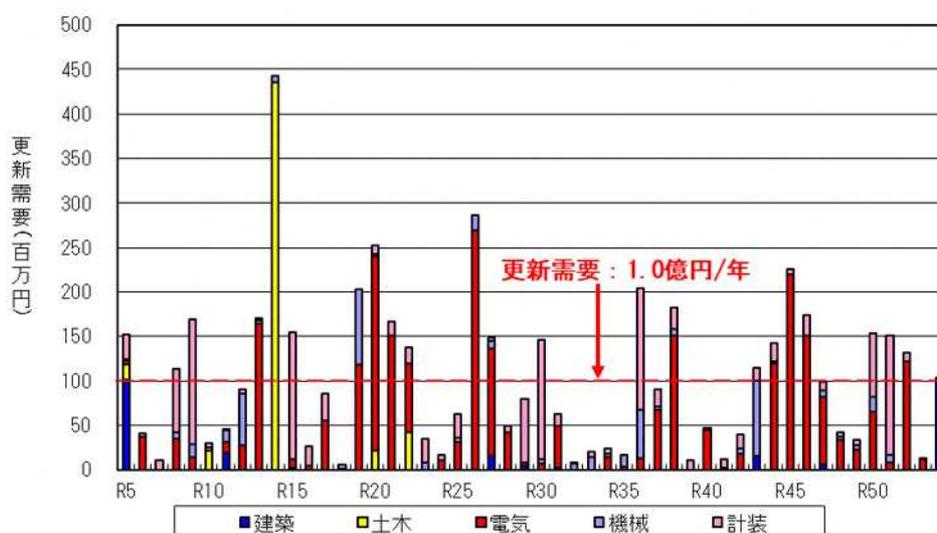
中長期の施設等更新需要の見通しを検討するとともに、財政収支の見通しを踏まえた更新財源の確保方策を示すものです。

(2) 検討期間

本計画においては、50年間（令和5年度～令和54年度）の更新需要見通し及び財政収支見通しを検討します。

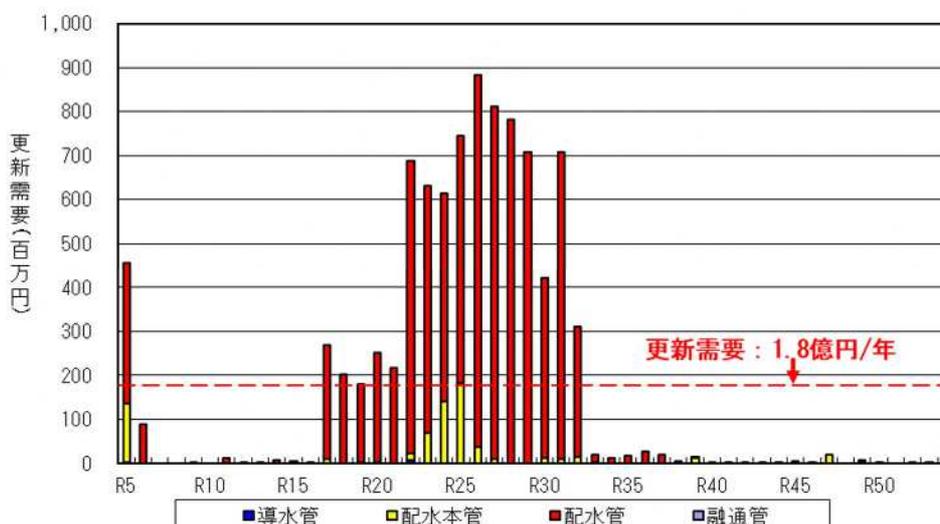
(3) 更新需要の見通し

構造物及び設備は、蕨市水道事業施設標準更新年数基準に基づいて更新した場合、検討期間内で平均すると、年間約1.0億円の更新需要が見込まれ、法定耐用年数で更新した場合と比べて年間約1.4億円減少します。



< 構造物及び設備の更新需要 >

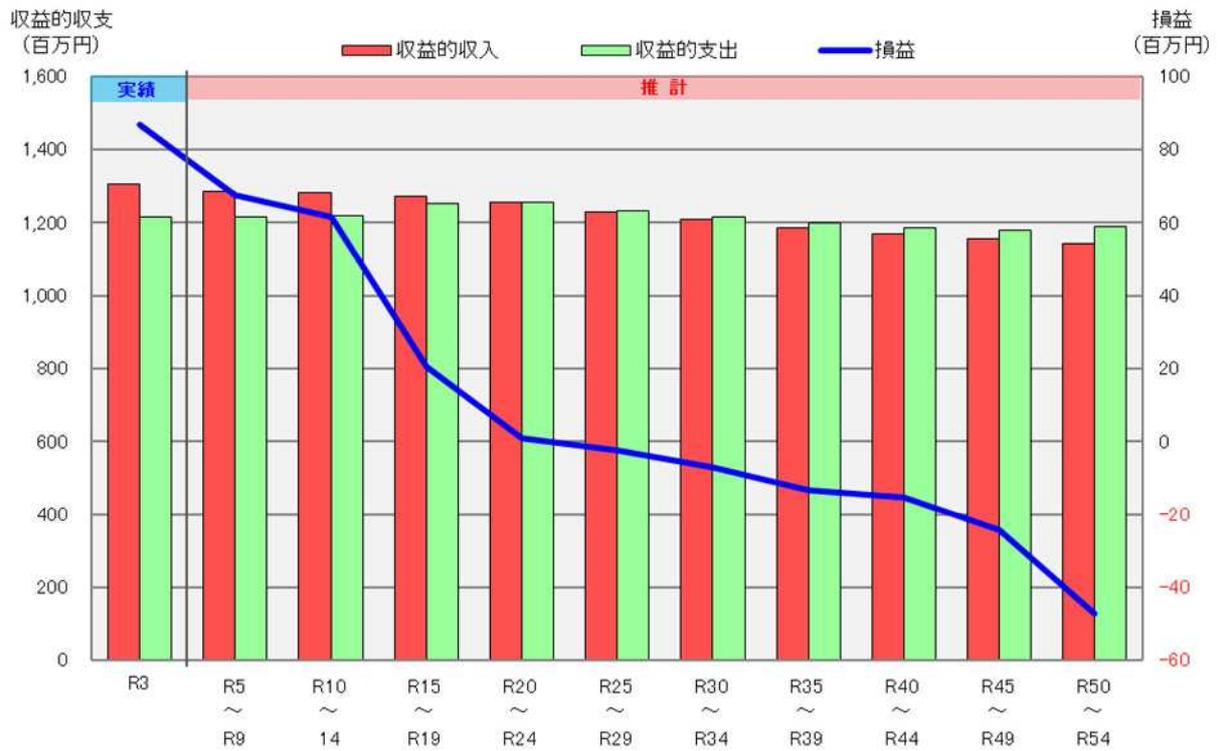
管路は、蕨市水道事業施設標準更新年数基準に基づいて更新した場合、検討期間内で平均すると、年間約1.8億円の更新需要が見込まれ、法定耐用年数で更新した場合と比べて年間約3.2億円減少します。



< 管路の更新需要 >

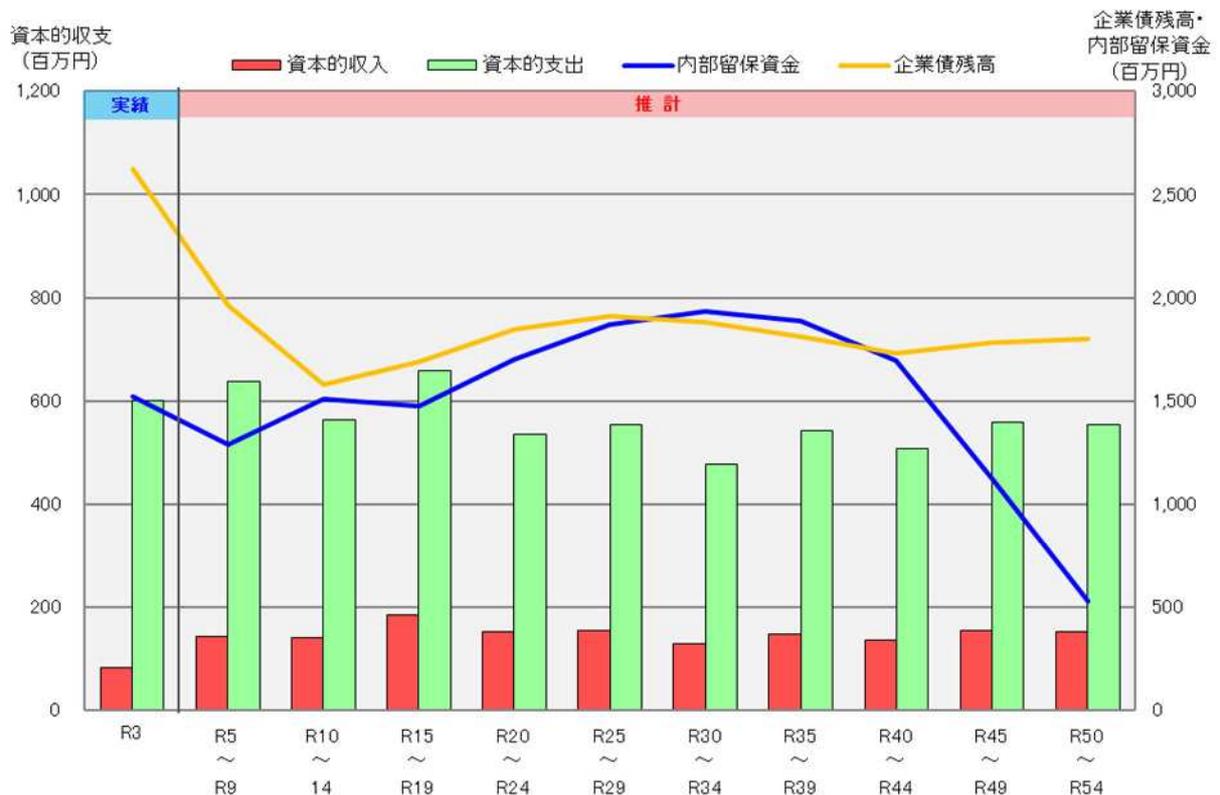
(4) 財政収支の見通し

収益的収支の見通しでは、令和 27 年度以降は単年度欠損金が発生する見込みとなり、現行料金水準では財政収支の均衡が図れない状況となります。



<収益的収支の見通し>

資本的収支の見通しでは、内部留保資金は 5~20 億円程度を確保することが可能となっています。



<資本的収支の見通し>

6. 経営戦略

(1) 趣旨

今後ますます厳しいものとなることが想定される水道事業を取り巻く経営環境に対応していくために、中長期的な経営の基本計画である「蕨市水道事業経営戦略」を平成 29 年度に策定しましたが、策定から 5 年を経過したことから、「蕨市水道事業ビジョン」策定にあわせて経営戦略も見直します。

(2) 計画期間

令和 5 年度から令和 14 年度までの 10 年間とし、策定後 5 年目に見直しを行います。

(3) 投資計画

将来にわたって施設・設備の健全性を維持するための投資を、適切な時期に実施する計画として、計画期間内における年次別事業計画は次のとおりです。

単位: 百万円【税込】

事業名		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
設備	機械・電気設備更新	42	49	13	137	204	10	32	110	206	9
管路	老朽管更新・耐震化	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260
合計		302	309	273	397	464	270	292	370	466	269

<年次別事業計画>

(4) 財政計画

収益的収支の見通しは、計画期間すべてにおいて単年度利益を計上できる見通しです。

単位: 百万円(税抜)

項目	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
①収益的収入	1,287	1,282	1,281	1,289	1,290	1,285	1,283	1,282	1,283	1,279
給水収益	1,114	1,108	1,106	1,114	1,116	1,111	1,110	1,109	1,110	1,105
他会計補助金	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
長期前受金戻入	47	47	48	48	48	47	47	47	47	47
その他収入	125	126	126	126	125	126	125	125	125	126
②収益的支出	1,231	1,219	1,208	1,217	1,216	1,219	1,215	1,220	1,228	1,222
人件費	80	81	82	82	83	84	85	86	87	87
管理・事務費	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
委託費	180	182	184	185	187	189	191	193	195	197
受水費	316	313	313	316	317	315	314	314	314	312
維持管理費	86	86	86	87	87	87	87	88	88	88
減価償却費	481	472	464	464	459	470	465	467	469	471
資産減耗費	14	15	13	18	21	13	14	17	21	13
支払利息	36	33	29	26	24	22	20	18	17	16
その他費用	13	12	12	14	13	14	14	12	12	13
①-②単年度損益	56	63	73	72	74	66	68	62	55	57
給水原価(円/m ³)	156	155	153	154	153	154	154	155	156	156
供給単価(円/m ³)	147	147	147	147	147	147	147	147	147	147
料金回収率(%)	94	95	96	96	96	95	95	95	94	94

<収益的収支の推移>

資本的収支の見通しでは、内部留保資金は計画期間内において12～17億円程度を確保することが可能となっています。

単位：百万円(税込)

項目	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
①資本的収入	130	132	121	159	179	121	127	151	180	121
企業債	100	102	91	129	149	91	97	121	150	91
国庫補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工事負担金	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
他会計出資金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②資本的支出	617	603	558	674	732	527	538	594	680	475
建設改良費	362	370	334	459	526	332	354	433	530	333
企業債償還金	255	233	224	215	206	195	184	161	150	142
①－②差引不足分	△ 487	△ 471	△ 437	△ 515	△ 553	△ 406	△ 411	△ 443	△ 500	△ 354
内部留保資金	1,237	1,269	1,334	1,325	1,278	1,374	1,465	1,522	1,520	1,660
企業債残高	2,196	2,064	1,931	1,844	1,787	1,682	1,596	1,556	1,556	1,505

<資本的収支の推移>

蕨市水道事業ビジョン

令和5年3月 発行

発行 蕨市水道部

〒335-0004 埼玉県蕨市中央2丁目10番6号

TEL 048-431-3507 FAX 048-431-4144

